荒尾市立府本小学校　校長便り　№89

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年4月13日(月)

独り言

最近、「みんなの居場所」の執筆に時間がかかる。話題に困ることが多い。ネタ用のメモ帳を持ち歩くことが少なくなったため、良いアイデアが浮かんでもメモしていないのだ。人間の記憶はそんなものなのか、あるいは自分が年をとったのか。メモを心がけようと思う今日この頃だ。

立場上、学校運営については四六時中頭から離れない。学校に関わる人々が心地よく日々を過ごすために、何ができるかを常に考えている。そのアイデアがいつ浮かぶか分からないので、やはりメモは便利だ。若い頃は「手」にメモしていたのだが、最近はそういう訳にもいかなくなった。スマホのメモリー機能を使えばいいと息子たちに言われ、確かに！と思うものの、やはり昭和生まれの私にとっては、スマホ自体を使いこなすことができないのだ。何となく切ない気分だ。

【雑感】「国語の力」と「読書」は学びの要

以前、「みんなの居場所」でもお話ししていたと思いますが、どのような学習をするにしても「国語の力」はその土台であり、学びの要です。併せて、「読解力」も重要です。読解力というと、文章の内容理解と考えがちですが、私はそれにプラスして、「直面している事態を的確に把握し、それが意味するものを汲み取る力」ととらえています。このような力は、国語の授業を中心とし、人との関わりや多くの読書活動等によって養われていくものです。

お茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦さんは「一に国語、二に国語ニ、四がなくて五に算数、あとは十以下」と仰っています。藤原さんはなぜ国語が大切なのか、その理由として2つ挙げられました。一番目の理由は、言語を学ぶという目的があるということ。生活をするうえでも学問をするうえでも、国語はすべての出発点です。二番目は、国語をきちんと学ぶことで論理的思考能力が身についていくということ。ディベートをしたり、何かを主張する作文を書いたりすることで、論理的に考える力が身に付いていくというのです。もともと私は国語力の重要性や必要性を感じていましたので、藤原さんの考えがスッと入ってきました。

教育現場でも政治やビジネスの最前線でも、「現場での読解力」の乏しい人がいくら集まっても、お互いの意図を十分に理解しあったり相手に寄り添うことができなかったりするために、コミュニケーションの質は高まらず、何ら発展的な成果を上げることはできません。私は、テレビでもこの様な場面を見たことがあります。只々自分の主張を繰り返すだけで、建設的な意見も出さず代替案も出さない人たちが集まり、議論にもならない話し合いを。そんな時間は無意味ですし、時間の無駄です。

本校では「主体性」「協働性」「創造性」を子ども達に身に付けさせたい資質・能力として教育活動を展開しています。中でも「協働性」は「思いに気づき、目的を共有しながら多様な他者と関わり、協力して行動する力」としています。まさに現場の読解力、すなわち「直面している事態を的確に把握し、それが意味するものを汲み取る力」を駆使し、課題解決の方法を多様な他者と協力して見つけ出す力です。

私個人の考えではありますが、今仕事をさせて頂く上でも「現場の読解力」はとても役立っており、「国語の力」アップのための「読書」もしっかり続けようと思っています。

シリーズ「自分を語る」#89

研修員の来日は、8月1日です。南米とアジアでは来日時刻が違います。私はタイとカンボジアの研修員出迎えでした。中国は中国語の通訳さんが出迎え、南米はスペイン語の通訳さんが出迎えます。タイ、カンボジアの研修員は福岡空港の国際線に午前の到着でした。早朝、公用車で福岡へ。前日に作った「ようこそ日本へ○○さん」のボードを胸に、ドキドキワクワクの澤田でした。

予定していた便は少し遅れて到着しました。到着ロビーで待つ緊張の面持ちの澤田、それを見つけて笑顔で寄ってくるタイの研修員。

「うわっ、来た！」

「マイネームイズキティサックセーラオ、ナイストゥミーチュー」

「ナイストゥミーチュートゥー　マイネームイズ…」

この後の会話が続きません。澤田、最大のピンチ！　そうこうしているうちに、同じ便に乗っていたカンボジアからの研修員が！　同じような挨拶を交わし、無言の数秒間を過ごしたあと、もう破れかぶれで「こちらへどうぞ。」と手招きをしました。すると、場の雰囲気を読んで頂き、私の案内に従ってくれました。公用車の中で約2時間、ありとあらゆる思考を巡らし、研修員2人に気を遣う私澤田、その日の疲労感は普通のそれではありませんでした。

県庁に到着した後、挨拶を済ませ宿舎へと送り届け、数日分の食料の準備と、ガス、水道の使い方等を一通り教えて、私は再度県庁へ。南米と中国の研修員の到着を待ちます。中国の研修員は熊本空港到着で、中国語通訳の方が同じ宿舎まで送り届けていました。南米の研修員は夜到着です。成田空港到着後、福岡空港到着です。その後、公用車で熊本に来ます。午後10時ごろでした。南米の研修員2名が到着です。遅い時間でしたが、食事とガス、水道の使い方について話した後、私は帰宅しました。

次の日は、研修員5人まとめて、日本の生活についてレクチャーしなければなりません。8月は気の休まる時間はゼロでした。5人の研修員と、既に来日していた留学生と研修員合わせて8名の親代わりとして8月を過ごすことになるのです。9月の研修先受け入れに向けて、日本語研修、生活研修、研修先訪問、研修員受入式…、もう目の回る忙しさでした。忙しいというよりは、仕事が自分の目の前を通り過ぎていくという感じでした。国際課での私の役職名は参事（さんじ）でしたが、当時の私を見た教え子や教職員仲間はこう言っていました。「参事ではなく惨事だな…」　周囲は心配していたようです。私の仕事ぶりを。仕事ぶりというより、仕事に振り回される私を心配してくれたのでしょう。私は学級担任に拘り、それだけを生き甲斐にしてきましたから、それを知っていた教え子達が気を遣ってくれました。しかし、私はその頃、既に気持ちを切り替えていました。

「この子達（研修員や留学生）を教え子として接していこう！」

気持ちの整理がついた私は、こうして8名の教え子達と濃密な時間を過ごしていくことになりました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）